おわりに

昨年８月に住友山田社宅の６棟８件が、国の登録有形文化財として登録され、現在、本年３月の一部公開を目指して社宅群の整備を進めております。

住友山田社宅は、昭和４年に開発が始まった住友各社の社宅群で、旧住友別子鉱山㈱の常務取締役だった鷲尾勘解治が、「地方後栄策」というまちづくりの一環として計画した社宅でございます。

中国の春秋時代の名宰相　管仲の言葉に「一年の計は、穀を樹うるに如くはなく、十年の計は、木を樹うるに如くはなく、終身の計は、人を樹うるに如くはなし。」がございます。

これは、喫緊の課題への対応はもちろん重要でありますが、十年先、百年先のあるべき姿を見据えた計画と何よりそれを担う人材育成の重要性を説いたものであります。

百年先の日本やそこに生きる人々の「未来」と「幸せ」を見定めた明治の別子銅山の近代化や昭和の「地方後栄策」は、正に百年の計であり、新居浜市と住友グループの発展の原点がここにあると言っても過言ではありません。新居浜市の「誇り」、共存共栄の証として、大切に保存し、後世に伝えてまいりたいと考えています。

更に本年４月には、令和元年６月に策定した「若宮小学校活用基本計画」に基づき、現在改修工事を実施しております、生涯活躍のまち拠点施設「ワクリエ新居浜」を供用開始いたします。

新しい施設は、木育推進ルームをはじめ、テレワークも可能なコワーキングルームや、あらゆる年代の方が多様な学びを深めるリカレントルームなどを設け、人生１００年時代の到来に向け、子どもから大人まで、自分にとっての『わくわく』を発見し、関わり、創造することが出来る、多目的複合施設でございます。

この新しい施設が、人の和や人の繋がりのもと、新たな夢にチャレンジするシンボル施設として、また、楽しみながら充実した人生を送るための活動拠点として、多くの皆様にご活用いただきたいと考えております。

令和３年度は、新型コロナウイルス感染症対策、防災・減災対策などの喫緊の重要課題に対応することはもちろんのこと、本市の未来を担う子どもたちに、ふるさと新居浜を継承するとともに、十年先、百年先の本市の未来・あるべき姿を見据えて、少子高齢化対策・人口減少対策など地方創生の取り組みを進めてまいります。

私自身、これまで２期８年間、「誠実・決断・実行」をモットーに、市政を担っていまいりました。第３ステージの４年間につきましても、７つの「夢」の実現に向け、全力で取り組んでまいる所存でございますので、議員の皆様、市民の皆様におかれましては、「チーム新居浜」の一員として、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。